

令和6年度 「新時代に対応した高等学校改革推進事業」 普通科改革支援事業 報告書



宮崎県立飯野高等学校

目次

- 1 本校における普通科改革の目的と意義
- 2 主な取組と成果のポイント
- 3 改革の基本方針・コンセプト
- 4 具体的な改革の取組内容
 - (1) 地域探究活動からグローバル探究活動へ
 - (2) 「超探究の日」の実践
 - (3) 企業・大学との連携強化
 - (4) 地域との連携と越境学習
 - (5) 成果と今後の展望
- 5 事業推進による成果と体制づくり
 - (1) 主体性・協働性・探究性の高い学習環境の構築
 - (2) キャリア教育・進路指導
 - (3) 探究を支える教員チーム・コーディネーター
 - (4) 共創パートナー制度
 - (5) 教員研修（ICT活用、探究指導法など）
- 6 課題と今後の展望
- 7 成果普及のための取組

1 本校における普通科改革の目的と意義

背景

宮崎県えびの市では、地域人口の減少や高齢化により、地域社会がさまざまな課題に直面している。その解決を図るためには、高校と地域が一体となった「共創」が不可欠となっており、その中核となるのが市内唯一の県立高校の本校である。平成20年に構造改革特区の制度を活用し、小中高を通じた地域学「えびの学」を導入して以来、地域に根差した学びの実践を積み重ねてきた。この取組は、地域の文化・産業・社会課題を学びの対象とし、学校教育を通じて地域との協働を深化させることを目的としている。平成26年には、地域課題解決型の探究活動を本格的に導入し、小中高が連携しながら地域を「知る」「理解する」ことで、生徒が地域への愛着と当事者意識を持ち、主体的に社会と関わることを促してきた。特に本校では、全国に先駆けて高等学校段階における地域との協働による探究的な学びを体系化し、「社会に開かれた教育課程」の実現を推進してきた。

その結果、生徒が主体的に地域づくりに参画する意識が高まり、実際に地域の課題解決に向けた実践的な活動が増加している。全国的な調査結果においても、地域と連携した活動に関する生徒の関心度や参画意欲は全国平均を大きく上回っており、本校の探究活動が地域の人材育成に寄与していることが裏付けられている。こうした研究と実践の成果を踏まえ、本校では、従来の普通科の枠組みを超え、これまでの探究活動の蓄積を活かし、地域と共に学び、社会に貢献する人材を育成するカリキュラムを創ることとする。新たな普通科が、本校の地域人材育成の拠点としての役割をさらに強化し、生徒一人ひとりが社会の変化を捉え、未来を創造する力を養う教育環境を提供していくと考える。

地域との協働による高等学校改革事業で探究的な学びを推進
カリキュラム改編。地域学（学校設定科目）の配置と必修化



“地域学”（H20～）の取組みによる効果



H20年にスタートした構造改革特区による小中高を通貫した地域学「えびの学」の取組み

→小中高が協働し、地域について“知り”“理解”（地域や縦のつながりにより地域に対する愛着を持つ）生徒の育成に向けたカリキュラム



H26年にスタートした地域課題解決型の探究活動の取組み

→えびの学で深まった地域での学びをベースに、全国に先駆けて高等学校における探究的な学びをカリキュラム化
社会に開かれた教育課程の実現とともに、地域課題解決に向けた実践する生徒の育成



学校を超え、生徒が主体的にまちづくりに参画する意識の醸成・実践的な取り組みの増加

	本校	県	全国
地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	77.8%	68.0%	62.2%
将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	81.5%	70.8%	68.0%
地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある	79.0%	72.8%	72.0%
住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	71.6%	63.9%	58.3%

※上記は、同じように地域との協働活動に取り組む高校の生徒向け調査。赤は全国平均より10ポイント以上高い。黄色は全国平均より高い。

地域と一体となった取り組みにより生徒主体の学びの実現と、えびの市における地域人材育成の拠点である高校に！

カリキュラムについては、予測不可能な時代において地域社会に必要な人材を育成するため、従来の教育活動の枠組みを超えた新たな普通科のカリキュラム開発に向けた研究を進めてきた。これまでの実績を踏まえ、生徒一人ひとりの多様な能力・適性、興味・関心に応じた学びを実現し、その可能性を最大限に伸ばす教育環境の構築が求められている。特に、人口減少が進む地域（えびの市）社会において、地域の未来を担う人材を育成することが不可欠であり、飯野高校で学ぶ生徒の増加に向けた魅力ある教育の提供が急務となっている。そのため、本校では地域と協働しながら新時代に対応した先進的な教育モデルの開発に取り組んできた。その一環として、地域社会が直面する課題の解決を図るために、高校と地域が連携し、新たな人材育成の枠組みを構築する必要がある。それが本校における「新時代に対応した高等学校改革推進事業」普通科改革支援事業を推進し、新たな普通科を設置することである。これまでの研究をもとに、グローバルな視点を持ち、地域課題を俯瞰・分析し、解決に向けてアクションを起こす人材を育成するため、新たな普通科の設置を目指すこととした。この新たな普通科（地域社会学科）を設置する目的と意義は以下のようにまとめることができる。



新たな普通科（地域社会学科）による「地域と共に人材を育てる」学びへの転換

- ① 地域の課題を俯瞰し、グローバルな視点から解決策を実践する次世代人材を育成
- ② 画一的な普通科からの脱却と「共学・共育」の推進
 - 従来の普通科の枠組みを見直し、探究的・協働的な学びを通じて教育マインドを転換
- ③ 地域創生の拠点形成
 - 地域における多様な分野で活躍できるリーダーを育成し、地域活性化の中核を担う存在を目指す

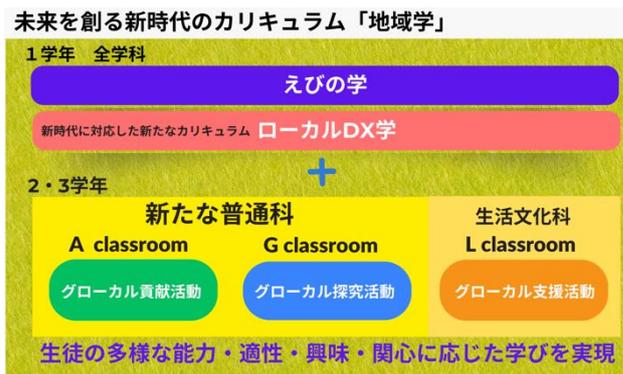
2 主な取組と成果のポイント

(1) 新たな普通科設置に向けたカリキュラム開発

昨年度までの2年間の取組で、従来のカリキュラムをアップデートし、より探究的な学びを軸としたカリキュラムの開発に取り組んできた。今年度は特に「学びの往還」「越境学習」に焦点を当て、教科横断的な学習と地域との連携を強化することで、生徒が主体的に課題を発見し、解決へと導く能力を養うことを目的として研究開発を進めた。

(2) カリキュラムの再構築

地域学の増単や新科目「グローバル探究活動（仮称）」等の開設に向け、従来の学びを深化させる改革を推進している。大学入試制度の多様化を見据え、生徒が内発的に学びを深められる仕組みを整備するため、小中高でのカリキュラムの連携を図りながら、高校が探究活動の先導的役割を担う形での教育モデルの構築を行った。また、昨年度までの研究で普通科探究コースのみをアップデートすることで学校全体のカリキュラムマネジメントを進めることを検討してきたが、関係機関との協議や助言などにより普通科全体のアップデートに加え、生活文化科も加えた研究を進めてきた。



3 改革の基本方針・コンセプト

- ・ 新学科の設置及び設置に向けた検討状況・関係者への説明の実施状況
- ・ 県内初の新たな普通科「みらい探究科」の設置へ

本校では、新たな普通科の設置により、教育の質を高めるとともに、地域との連携を一層強化することで、持続可能な地域社会の実現に寄与し、多様な関係者と協力しながら、未来を見据えた教育改革を推進する上で、下記のように県内初の新たな普通科「みらい探究科」の設置（令和8年度）に向けて準備を進めてきた。

【背景】

飯野高校では、グラデュエーションポリシーとして「自立して学び続けようとする力」の育成を掲げている。これに基づき、地域社会と主体的に「共創」しながら社会変革を起こすことのできる人材の育成を目的として、新たな普通科のコンセプトを策定した。

【目指す人材像】

- ・ 新たな普通科では、以下のような資質・能力を備えた人材を育成することを目指す。
- ・ 地域社会と常に関わりながら、自立して学び続ける人材
- ・ 地域社会の魅力・現状・可能性を理解し、地域資源を活かして地域をデザインできる人材
- ・ 地域社会の課題を解決するために、新しい社会の仕組みや価値の創出をデザインできる人材

【育成する能力】

以下の6つの能力を重点的に養成する。

- ・ 創造的企画力
新たな社会的価値やイノベーションを創出するための企画構想力を養う。
- ・ コミュニケーション力
地域をはじめ、国内外の多様な人々と垣根を越えて協力し、相互理解を深める力を身につける。
- ・ 課題解決力
地域や社会の課題を未来志向で捉え、持続可能な解決策を探求する力を養う。
- ・ 協働力
多様な主体と連携し、共に活動する力を育てる。
- ・ 実践力
課題解決のための具体的な方策を立案し、実行に移す力を養成する。
- ・ デジタル活用力
デジタル技術を駆使し、課題解決に向けた新たなアプローチを実践できる能力を身につける。

以上、本事業における研究開発を踏まえ、新たな普通科の設置に向けて、学科名を含め新たな普通科設置の理由、学びの特色・特徴を下記のとおりとした。

新学科名称（新時代に対応した普通科改革による普通科の新名称）

みらい探究科

みらい探究科は、えびの市唯一の県立高校として、地域と連携しながら次世代に求められる人材育成を目指し、グローバルな視点とローカルな視点の両方を備えた「グローバルヒーロー」を輩出することを目指す。この学科では、生徒一人ひとりが主体的に学び、協働と創造を通じて地域社会と自己の未来を切り拓く力を育む。

「未来を共創し、地域と世界をつなぐ学びの拠点へ」

普通科は、創立当初より地域の人材育成を担う重要な役割を果たしてきた。地域の要請に応えるべく、大学等への上級学校進学をはじめ、地域の将来を見据えた人材育成に重きを置き、教育活動を展開してきた。平成 27 年からは、地元のえびの市を中心とした地域協働による探究活動を推進。地域で社会を学ぶことを重視し、高校段階から社会で必要なスキルを育成し学びを深めている。これは、従来のカリキュラムにとどまらず、飯野高校独自のプログラムにより県内普通科の学びに一石を投じる新たなカタチを実践してきた。その学びは、生産年齢人口や年少人口の減少による地域の高校づくりにおいて全国から注目されるものとなり、視察研修が絶えないものにもなっている。何より生徒が自らの興味や関心を追求し、主体的に学べる環境を整えるために、地域をあげて地域資源を活用したプロジェクトやテーマで行動を起こす生徒が増加。社会人となった卒業生による地域社会への貢献や難関大（旧帝大、国立大医学部）への進学実績等にもつながっている。この 10 年の学びと実績をもとに新時代に必要な力を育成する“新たな普通科”を設置する。

新学科の特色・特徴

新たな普通科「みらい探究科」のコンセプト

1. 「未来を創る力」を育む
2. 地域社会との「共創」による実践から学ぶ
3. グローカルな視点で課題解決を考える
4. イノベーション創出に向けた地域資源とデジタルの活用
5. 探究活動をカリキュラムの軸とした各教科との学びの往還

【共働 ActionLab】

地域社会の課題をグローバルな視点で捉え、地元の資源や文化を活かしながら地域社会に貢献できる力を育成する。生徒は「グローバル貢献活動」「ローカルデザイン」などの科目を通じて、えびの市やその周辺地域に密着した実践的な課題解決に挑戦し、将来的にはグローバルな場面でも発揮できるリーダーシップを磨く。実社会で磨いたスキルを進学～就職までつなぎ進路実現をしていくコースである。

（新コースのカリキュラムの特徴）

- ・ 地域の企業や団体と連携したプロジェクト活動を通じ、実社会での課題解決力を強化
- ・ 自身の興味に応じた実習先を選べる仕組みにより、自らの将来像を模索
- ・ 新設科目の「ローカルデザイン」で、デジタルツールやデザイン思考を用いて企画・評価のプロセスを学ぶ
- ・モチベーショングラフでの定期的な振り返りにより、自己成長を意識した学びの進展

【共創 QuestLab】

地域の課題を出発点とし、探究心と越境的な視点で新たな価値を生み出す力を育成する。このコースでは「グローバル探究活動」を中心に、地域と世界を繋ぐ課題設定やデザイン思考を通じ、解決策を実践に移していく姿勢を養う。国公立大学進学を目標に、専門性を深めるための探究を進める。

(新コースのカリキュラムの特徴)

- ・「グローバル探究活動」を通じ、えびの市内外での課題解決に挑む。
- ・「超探究の日」を設け、集中して探究活動に取り組むことで、生徒が創造的かつ実践的な解決策を模索。地域社会の課題解決に必要なデジタル技術やデザイン思考を学び、時代に即したスキルを獲得する。大学進学に向けた探究の深度化と、学びの往還による大学入試等に対応した実力を養成する。

新たな普通科による3つの柱

【次世代に必要な力を地域と共育する学びへの転換】

これまでの画一的な教育の在り方を見直し、地域と密接に連携した学びを通じて、社会で求められる実践的な能力を育成する。生徒が主体的に地域と関わりながら、問題発見・解決のプロセスを経験し、実社会で即戦力となる力を養う。

【共学・共育による教育マインドの転換】

教員と生徒がともに学び、探究する教育環境を整備することで、教育活動全体を「共に創り上げる」ものへと変革する。知識の一方的な伝達ではなく、対話的・協働的な学びを通じて、生徒の主体性や創造性を最大限に引き出す。

【地域社会のリーダーを育成する地域創生の拠点形成】

地域の多様な分野で活躍できるリーダーを育成するために、探究型学習を中心に据えたカリキュラムを構築する。生徒は地域課題の解決に関与しながら、実践的なスキルと広い視野を養い、将来的には地域社会を牽引する人材へと成長していく。

4 具体的な改革の取組内容

(1) 地域探究活動からグローバル探究活動へ

「グローバル探究活動」は、新たな普通科及び全学科コースに探究的な学びを浸透させるための柱となる科目とする。地域課題に取り組む従来の探究活動をさらに深化させ、国内外の視点を取り入れた問題解決型学習（PBL）を実践するプログラムである。特に、生徒が実際に地域のフィールドワークや国際的なリサーチを行い、専門家や地域住民との対話を通じ、課題解決に向けたプロジェクトを立案・実施することを重視している。本カリキュラムでは、2年間を通じて段階的に学びを深める設計となっている。

【1年次】

(4月～5月) 探究の基盤形成

- オリエンテーション
 - ・地域探究活動の概要説明
 - ・先輩の事例紹介
 - ・探究活動で養成する力を可視化
- 地域課題の発見
 - ・地域の強み・課題を洗い出し、アイデア出し（100個の課題解決アイデア創出）
 - ・プロジェクトテーマを決定し、プレゼン発表・振り返りを実施
- 自己理解とプロジェクト立案
 - ・WILL（やりたいこと）・NEED（社会の必要性）を整理
 - ・チーム編成と対話によるプロジェクト決定

(6月～7月) 調査・フィールドワーク

- 超探究の日（越境学習）
 - ・国内外の専門家によるトークセッション
 - ・探究プロジェクトの深化に向けた対話とリフレクション
- 調査活動・企画書作成
 - ・国内外の類似事例のリサーチ・地域の専門家・企業へのインタビュー計画
 - ・実践に向けた役割分担とプロジェクトの明確化
- フィールドワーク
 - ・地域での現地調査や企業・行政機関との協働活動・実践を前提とした企画のブラッシュアップ
 - ・地域外（国内外）への越境プログラム等への参加
 - ・台湾越境プログラムの実施（※中華医事科技大学との連携による）

(9月～12月) 実践・発信

- プロジェクトの実施
 - ・各チームがフィールドワークを重ねながら課題解決の実践
 - ・関係機関との調整を経て、地域や学校内での発表・世界越境プログラムの実施
※えびの市との連携によるフランス・マダガスカルへの大学・高校への研修
- 中間報告会
 - ・プロジェクトの進捗をスライドにまとめて発表

<ul style="list-style-type: none"> ・ 対外コンテスト等への出展
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ひなた場」の実施 ・ 市内中学校で探究プロジェクトについてアウトプット ・ 探究学習のアウトプットとキャリア教育融合
<p>(1月～3月) リフレクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実践結果のリフレクション ・ プロジェクトごとのふりかえり ・ ポスターにまとめ、県内近隣地域の高校との合同研修会
<p>【2年次】</p> <p>(4月～9月) アップデート</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プロジェクトのアップデート ・ 3月までの一連の活動をもとにさらなる検証 ・ M S E C フォーラムでの研修・実践、リフレクション
<p>(10月～12月) まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プレゼン製作 ・ 活動全体のふりかえり ・ プロジェクト活動全体の成果報告用プレゼンの作成
<p>(1月) 成果報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グローカル学習成果発表会 ・ 市内関係者、小中学生等にむけてプレゼン ・ 2年間のふりかえり

(2) 「超探究の日」の実践

「超探究の日」は、探究的な学びを1日かけて深める特別なカリキュラムであり、以下の目的で実施している。2年間試行してきた中で、生徒たちが探究活動に時間をかけて集中して取り組める環境を作り出すことができた。以下はそのメリットである。

- ・ 探究の深化: 教科での学びと探究活動を結びつけ、思考を深める
- ・ 地域との連携: 平日実施により、官公庁・企業・地域団体との協働の促進
- ・ プロジェクトの加速: 専門家のアドバイスを受けながら企画をブラッシュアップ

(プログラム例)

午前: 探究ワークショップ (先駆者による講演・対話セッション)

午後: 各プロジェクトのフィールドワーク・企画書作成



世界に事業展開する起業家との対話



地元で観光業を展開する起業家との対話

超探究の日 生徒の振り返り（一部抜粋）

・自分たちの今までの活動を振り返って、地域の人々の協力のおかげで何回も活動を行えてきたが、リーダーや地域の皆様に頼りっきりで受け身になってしまっていたと実感した。このような反省点もあったが、振り返ってみると大変ながらもたくさんの人と交流しながらの活動は、自分の視点を大きく広げてくれる経験だった。ここまで大勢の人と触れることはめったにないので、この経験を糧に今後の生活や学び、人間関係にも生かし、楽しんでいきたいと感じた。

・ひとりで黙々とプレゼンをつくって、あらためて探究をすることの難しさや案を出すことの難しさを感じた。いままでの探究を振り返ると意見をあまり出せなかったりしたこともあったが、全員で協力したからこそ「スプラッシュフェス」が成功したのだと思った。プレゼンの修正しないといけないところがたくさんあったので良い機会になった。本番ではミスがないように練習を積んでいきたいと思った。

・超探究を終えて、これまで自分がやってきたことを振り返って、成長したところがたくさんあった。特に、コミュニケーション力と行動力が強くなった。企画説明やポスター作成、ボランティア募集などにコーディネーターさんと相談したり、相手側とのやり取りを行った。ボランティアについては、参加者を呼び込むためにポスターをはった。参加者人数が定員よりも多くの方が来てくれて良かった。この経験が面接で大いに役に立った。

・今日は、探究のまとめスライドで行った。大学に進学した際に、高校の活動をどのように生かせるかなどまとめたことにより、自分が取り組みたい探究を発見でき、いい時間となった。また、より多くの子ども達のサポートをすることができるようボランティアなどにも挑戦してみようと思った。地域の方々と交流する機会などがあったら、積極的に参加するなど自分自身が成長できる活動を行う。

・活動を単発的に行って終わりではなく、事後ワークを含め何を目的としてその活動を行っていたのかなどを丁寧に振り返りながら行うことができた。また、スライドを作成していく中で今後は教育に関しての活動をメインに行っていきたいのはもちろんのこと、海外に留学をし、日本と海外との比較をしっかりと行いよりよい教育システムを作るためにはどうすれば良いのかの考察をしたいと思うことができた。今後に活かしていくため、振り返りをしっかり行うことができたので良かった。

・これまでの探究活動を振り返り、今後の進路への活かし方を考えることができた。高校2年生から本格的に始めた活動は、仲間と同じゴールに向かって達成する力を身につけた。また、多くの越境活動では知見を広げ、同世代の人や有識者の方々と議論をする場が多々あった。このような中で社会に転がる様々な問題を表すキーワードは独立しておらず、複雑に絡み合っていることを実感した。大学では、高校時代に抱いた疑問を解消するため学際的な観点から物事を考察していき、自らの理想とする社会の実現に向けてできることを身近なところから深く取り組んでいこうと思う。

・2年弱にわたる探究活動の目的や活動内容、実績、今後目指す形など改めて振り返ることができた。当初から、興味のある分野が異なるメンバーでグループを編成し、様々な分野における探究活動を、多

角的な視点から展開することができて最初に比べてかなり視野が広がるり、柔軟に意見を取り入れることができるようになったと思う。一方で、グループワークを行うにあたって、基礎的なことではあるが報連相を欠かさないことや平等な仕事分担など大切なことを多く学ぶことができたと思う。これからも、高校で養った探究心を忘れず、社会に積極的に参加したい。

・自分が今までやってきた不用品回収、募金活動、コーヒー販売を振り返って最初の目標から発展させて貧困地域の方だけでなく、自分たちやえびの市民、ほかの都道府県から来た人に私たちの活動を知ってもらい、知ってもらうことで貧困地域についても興味をもってもらえることが出来たと改めて感じた。その中で学んだことがたくさんあり、積極性、コミュニケーション能力、創造力を今後生かしていけると思った。

・とても良いフィードバックをいただけたことが一番の収穫だった。自分の知識の浅さや考え直すべき点を明確に教えていただいた。また違う視点での米粉の利用方法を提示していただき新たな見方ができるようになった。これからは世の経済の動きや動向を見ていきたいと感じた。

・初めての実践で「成功できるか」心配だったが、無事成功できることができた。施設利用者が、「またやりたい」と言ってもらえたので嬉しかった。しかし、リーダーに任せっきりだったので役割を明確化して次の探究につなげていきたい。

・支援学校の視察を通して、上記にもあるように制作過程の見通しを立てることによって子どもたちが完成までのイメージを立てやすいということが分かった。制作する際に使う道具は様々で、自分が衝撃を受けたものはプチプチ。次のイベントで使ったら面白そうだなと思った。また、発達段階によって制作するものは同じだけど作業が異なってくるというのも勉強になった。

・農協では聞きたいことが聞け、次のイベントの内容が少しずつ見えてきた。新しくチャレンジしようと思っている規格外の野菜や畜産物についても色々教えてくださった。精肉店もいろいろなお店に行き、協力してもらえるお店が見つかった。時間が少しオーバーしてしまったので次はもっと余裕を持って時間に間に合うように計画していきたい。

・FIRSTJAPAN から代表取締役の中武さんが高校にお越しくださり、FIRSTJAPAN さんがこれまで行ってきたツアー、これからえびの市で行おうとしているツアーについてのお話を聞くことができた。資金や交通手段の確保の仕方など、これからの探究活動において重要な情報を得ることができ、貴重な時間となった。

・今までで1番良い超探究の日になったと思う。目的と目標をもって色々な小学校に行けたのでそこは良かったと思う。だが、その目標が薄く質問に答えられないことも多数あったのもっと具体的に考える。思っていたより飯野小学校の授業は生徒主体でやっていて、自分が小学生だった頃よりもずっと楽しそうだった。

(3)企業・大学との連携強化

探究活動の越境化を進め「グローバル探究活動」を深化させるため、今年度は以下の取組を実践した。県外・海外プログラムの参加を促進し、視野を広げる機会を増やし、また事業所での実践や共同プロジェクトを通じて、社会との接続を深めるものとした。

今年度、台湾においてUSR（University Social Responsibility）事業に取り組む中華医事科技大学と連携交流協定を締結した。本協定は、地域の活性化を目的とし、医療福祉、観光、農業、地域サービスなどの分野における研修交流を実施している。

今年度は、6月から7月にかけての1ヶ月間、中華医事科技大学の学生10名がえびの市を訪れ、医療福祉機関や観光施設、農業関連施設、地域サービスに関する研修を行った。これにより、台湾の大学生が日本の地域社会における実践的な取組を学ぶ機会を提供し、相互の文化理解を深めた。プログラムには、本校生との研修や地域住民との交流も含まれており、地域をあげての事業としてスタートした。

また、8月には本校生が台湾を訪問し、1週間にわたり中華医事科技大学がUSR事業を展開する地域での研修を行った。現地の地域課題に対する大学の取組を学ぶとともに、台湾の地域社会との交流を通じて、グローバルな視点で地域の課題を捉え、ローカルな実践を通じて課題解決に向けた探究を深める機会となる研修プログラムを実践できた。さらに、研修で訪問した大学が連携する現地の高校（日本でいう高等専門学校のような機能も持つ学校）とのオンライン交流もスタートしており、現地の同じ世代と学び合いにより、台湾の地域社会の課題解決に向けたアプローチや地域資源の活用方法を学びながら、えびの市における探究活動へと還元することを目指していく。

新たな普通科設置後には、台湾と日本の学生が互いの地域社会の発展に貢献し、学び合う関係を築くとともに、本校生がグローバルな視点を持ち、実践的な探究活動に取り組む力を養うことを期待している。そのため、次年度もより互いの学びに有為な取り組みを試行する。そして、本カリキュラムの実践を通じて、探究学習の新たなモデルを確立し、地域・国内外の課題に向き合う「グローバル」な人材の育成を目指していく。

(4)地域との連携と越境学習

新たなカリキュラムでは、地域内外での学びの機会を創出することにも力を入れている。県内外のプログラムへの参加や、タイムブススクールを活用した海外での探究活動を推進し、これまでに全校生徒の約20%が県外・海外プログラムに参加するなど、学びの場を広げる取組が進んでいる。また、企業や団体と連携し、社会課題に関するプログラムを共同開発することで、実社会で求められる能力を育成することを目指している。



これらの越境プログラムは、連携する企業主催のものをはじめ、「みらいハイスクール共創校」との連携事業などあらゆるセクターとのつながりを活用したものを生徒に提供し、参加を促していくことを主としている。台湾の大学との連携協定もまさにこの取組を充実させていくことに寄与している。

Nection

宮崎から世界へ！次世代の幸せを追求した社会還元型プロジェクト



教育

農業

国際



より社会に拓けた教育を 農業従事者の増加を促す 日本をグローバルで豊かな国へ

地域創生

畜産



next generation

Nection

Connection

地域課題を活性化の材料にアップデート

畜産の興味関心の輪を広げる



1. 探究テーマの設定理由

Nectionのメンバーは全員出身が異なり、それぞれの経験や独自の視点を生かして社会問題にアプローチできるのではないかと考えた。

2. 研究仮説

複雑化する現代に、高校生視点の切り口から社会問題と向き合い、それぞれが掲げる理想の社会像に近づくために常に行動した。中でも「空き家を活用したコワーキングスペース」は去年の5月から多くの地域の方々との繋がりを大切にしながら、地域課題解消及び新しいコミュニティの創出を目的として活動してきた。

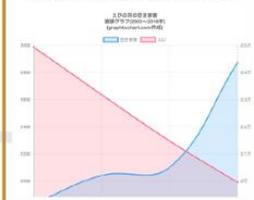
YouTube えびのさるき × 県立飯野高校 NECTION

築80年の牛舎をリノベしてコワーキングスペースを作りたい!!

〈コワーキングスペース〉場所に囚われない働き方が普遍化しているここ最近、注目を集めているコワーキングスペース。作業をしたい時、勉強したい時はもちろん、ホッとひと息つける場所としても活用したい。

3 調査

地域課題の実体を知り、その後空き家の内見
↓
地域の方との打ち合わせ・情報共有



4 実践

- 空き家の片付け
- クラウドファンディング (Campfireの担当者との打ち合わせ・リターン品の準備)
- SNS活動 (Youtube・Instagram・X・facebook)
- リターン品の発送・お礼のお手紙作成etc
- 改装作業
- 引き継ぎ

えびの市をNECTIONオリジナルトートバッグ

【宮崎県えびの市】田舎移住高校生とナチュの挑戦!! 築80年の牛舎リノベ計画!

募金の目標額 1,933,500円

5 実践後の課題

クラウドファンディングでは目標金額の設定を100万円としていてネクストゴールを300万円に設定していたが、100万円を達成してからなかなか金額が伸びなくなりました。クラウドファンディングの期間が終わりに向かうにつれ、SNSでの発信回数が少なくなりました。

Nectionの活動まるごと公開！

農業体験
ピーマンの誘引作業や収穫体験をし、農業の楽しさに触れた
・台湾研修
台湾で、観光地や学生と交流し自分たちの地域と比較しながら学びを深めた
・Englishカフェ
教育と国際を掛け合わせ、地域での英語教育の質の向上のためイベントを企画
・全国高校生マイプロジェクトアワード
自分たちが一年間通して行ってきた活動を発表
・SNSでの広報活動
日々の活動報告を積極的に発信

大会・出場コンテスト履歴

- ・第3回全国高校生プレゼン甲子園 優秀賞
- ・高校選抜探究リーグ 参加
- ・第6回台湾 修学旅行プロデュース大会 準優勝
- ・全国高校生マイプロジェクトアワード 宮崎県summit 特別賞
- ・世界と繋がろう！
高校生海外留学支援事業アメリカ研修参加 (アメリカに行き、ハーバード大学、コロンビア大学、マサチューセッツ工科大学訪問・プレゼン)



6 成長と今後の展望

どの実践活動も地域の方々の協力あってのもの進めていくことができた。チームメンバーそれぞれの考える課題やテーマが違うからこそ、多面的、多角的な視点で探究活動を展開していくことができた。牛舎のリノベーションプロジェクトは後輩に引き継いでもらい、地域の方々の為になる良いものを作り上げたい。
教育、国際、地域創生、全ての側面から地域社会をよりよくしていくために今後もアプローチを続けていきたい。

子ども食堂

～フードドライブで子ども達を笑顔に～

1.なぜ、子ども食堂なのか？（探究テーマ設定理由）

- ・えびの市に子どもの交流の場を増やしたい
- ・子ども食堂の固定概念をなくしたい
- 貧しい子どもだけでなくどんな子どもでもウェルカム!!!



2. 研究仮説

- ・高校生が実際に子ども食堂に行き参加することでえびの市の子供たちが集まりやすくなるのではないかな
- ・みんなで食卓を囲み食事をすることで孤独感がなくなり楽しくすごせるのではないかな
- ・子ども食堂に子ども達を参加させることで食への関心を持たせることができるのではないかな

3.調査活動

- ・新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、活動が「子ども食堂の開催」→「お弁当や食材の配布（特定の場所に取りに来てもらう）」→「食材等の宅配（自宅に届ける）」という形に推移している

4. 実践

アクション① 地域の子ども食堂に参加！！

現状： 作り手・参加者ともに減少している

- 目的
- ・もっと「食」について触れ、食品ロスの現状を知りたい
 - ・地域を活性化させて、子ども達の笑顔を見たい

日時：7月31日、8月19日

場所：飯野コミュニティーセンター
真幸コミュニティーセンター

提供したもの：カレー、唐揚げ弁当



アクション③ フードドライブ実践！！

課題： 道の駅に置いたが事前の声掛けが足りず集まらなかった

解決策：自ら飯野地区の家庭を回り、ご協力をお願いしてお菓子や文房具を集めた



アクション② フードドライブについて詳しく知りたい！！

インタビューした人：橋満里美さん

「pocket（ぽけっと）」の代表。希望者の自宅に食料品や生活雑貨を届ける「こぼやし宅食」に取り組んでいる

【インタビューした内容】

- ・何がきっかけで始めたのか
- ・実際にしてみてもうどうだったのか
- ・行う際の注意点
- ・行うにあたって必要なこと など

アクション④ 子ども食堂で子供たちが笑顔に！！

日時：3月2日

場所：えびの社会福祉協議会

提供したもの：カレー・チョコケーキ

【活動内容】

- ・アクション③で集まった物を来てくれた子供たちに渡した
- ・社会福祉協議会が用意してくださったおもちゃや折り紙で子供たちと交流した



5. 今後の活動

地域スポーツプロジェクトとコラボし、飯野高校でスポーツをしたり食品ロスについての紙芝居を行ったりして、小学生に食品ロスについて分かりやすく理解してもらう



フードドライブで集めた、お菓子や文房具を来てくれた子ども達に渡す



保護犬と楽しむアニマルセラピー



宮崎県立飯野高等学校 普通科探究コース 3年

①なんでアニマルセラピー？（探究テーマ設定理由）

★犬が好き → 保護犬や虐待される犬を減らすような活動をしたと思ったから。
 ★自殺率低下 → 宮崎県の自殺率は全国3位・
 アニマルセラピーを通して自殺率低下や悩みを持つ人の減少を目指す活動をしたと思ったから。

②研究仮説



★保護犬とのアニマルセラピーを通して動物虐待を防止することができる。
 ★道徳心や精神的な成長を促し、他所を受け入れる心を育てることができる。
 ★保護犬の現状を知ることができ譲渡者に会うことができる。
 ★犬にとっては人と触れ合うことで人になれることができる。



③調査活動 ★保護犬や保護猫の活動を行っている咲桃虎さんへ！

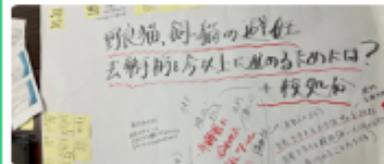
活動①

障害者支援施設「あさひの里」で咲桃虎さんが行っているアニマルセラピーをお手伝い＆体験！



活動②

咲桃虎さん企画で宮崎市で開催された「猫たちの未来を考えるワークショップ」に参加！



活動③

咲桃虎さんのお手伝い！
 ・犬の散歩や部屋の掃除
 ・猫部屋の掃除や猫の餌やり
 ・猫を入れる箱作り



④実践

イベント開催！！

★心を癒し保護犬について知ろうがテーマ！
 ★7月12日（金）実施
 ★飯野高校玄関で16時～18時、2部構成で行う。
 ★保護犬情報や譲渡会情報、保護犬の現状、募金活動を行い理解を深めてほしい。

⑤実践までの課題

★チラシや企画書を提出するのが遅かった。
 ★咲桃虎さんと打ち合わせができていなかったことがあった。
 ★QRコードの作成が難しかった。
 →事前に確認をし問題点を見つけられた。

⑥成果と今後の展望

★イベントを通して保護犬について興味を持ってほしい。
 ★飯野高校生だけではなく、えびの市内の小中学校内の生徒たちを対象にしたアニマルセラピーイベントを行いたい。
 ★命の教室なども企画して保護犬についての理解を深め宮崎県での殺処分数を低下させたい。



世界支援～Saving the world with our power～

宮崎県立飯野高等学校 普通科探究コース3年

1、テーマ設定の理由

・貧困地域の現状を知ってみたい
→現代の十代はニュースを見るのが少なく、世界で何が起きているのか知らないから
・世界に興味がある
→日本とは違う文化を発見することができるし、それぞれの国の魅力を見つけることができるから
・貧困率の増加
→様々な貧困の種類があり、貧困から抜け出せない状況が多く発生しているから

2、研究仮説

・不用品を回収し、NPO法人団体WORLD GIFTを利用して現地に届けることで、現地の方々に少しでも元気づけることができるのではないか
・イエメンコーヒーを販売することでイエメンの方々に勇気づけ、購入者が国内状況を知るいいきっかけになるのではないか
・自分たちが支援活動をするだけで少しでも世界中の貧困地域の方々の力になるのではないか

※WORLD GIFT：物品の寄付支援を中心に、子供たちの命を守る支援を行う団体

3、調査活動

・海外の途上国の魅力や課題を知るために海外支援協力隊の原口さんとのzoom
・イエメンの現状を知るためにイエメン支援隊の大川さんとのzoom



※https://gloleacebu.com/poverty_world/参照

4、実践

①募金活動、不用品回収

目的：寄付金、物資の寄付支援で世界の貧困で困っている子供たちの命を守ることができる。また子供用のおもちゃなどを寄付することで子供たちを少しでも笑顔にできる。

・募金活動

10/21・22 (in道の駅えびの) 計17名
10/25・27 (inAコープ飯野店、セイムスえびの原田店、タイヨーえびの店) 計16名

募金金額 165,383円

・不用品回収活動



利用した団体：WORLD GIFT

②イエメンコーヒー販売

目的：イエメン産のコーヒー豆焙煎し、ドリップコーヒーにして販売することで、売上金でイエメンの国のコーヒーの苗や農地のメンテナンスに役立つことができる。

・コーヒー販売

6/13 (in道の駅えびの) 1杯 (10g) 250円
50個販売→**2時間で完売**

○自分たちでコーヒー豆の状態から焙煎・梱包を行った→ドリップコーヒーとして販売



5、実践後の課題

世界の貧困だけを見ていたが、実際は日本でも貧困状態があることを募金活動や不用品回収、コーヒー販売を行っていく中で知った。また宣伝はしていたけど活動を知らない人が多かったので、もう少し宣伝する範囲を広げ、多くの方の目に留まるようにしたいと思った。



6、成果の今後の展望

多くの人たちに世界の貧困状況を知ってもらえるいい機会になった。
世界中の貧困地域の子供たちが貧困状態から抜け出せるようになってほしい！
→多くの子供たちが笑顔で幸せに生活を送ってほしい！





保護猫

～猫のためにできること～



1. なぜこのテーマにしたのか

- みんな猫が好き
→ 自分たちができることをして猫が住みよい世界にしたい
- 保護猫をみんなにもっと知ってほしい
→ 保護猫をより人々が知ることでも猫も人も幸せになれるから
- 猫を飼うとき保護猫を視野に入れてほしい
→ 一匹でも多くの猫を救うことができるから

2. 研究仮説

猫を飼っていない限り猫に触れあう機会も知る機会もない
↓
何かみんなが猫、保護猫と関わるきっかけを作りたい
↓
触れ合うことでより興味・関心が湧くのではないか
↓
猫カフェのようなイベントを開催し、そこで保護猫の情報を発信すればよいのではないか



3. 調査活動



1. 咲桃虎さんへのインタビュー&お手伝い

- 犬猫愛護団体で、どのような活動をしているのか、気を付けていること
- 犬の散歩、猫のいるお部屋・トイレの掃除



3. 小林保健所に保護猫の講話を聞きに行く

- 保健所の仕組み
- 今の小林市・えびの市・高取町の犬猫の現状
- 保健所での取り組み、イベント

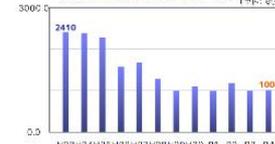


2. 「猫たちの未来を考えるワークショップ」に参加

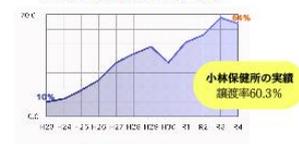
- アニマルセラピーの探求をしているクラスメイトと一緒に参加
- 保護猫に関する活動をする大人の話を聞く
- 「野良猫・飼い猫の選好、去勢手術を今以上に進めるためには」をテーマに話し合う



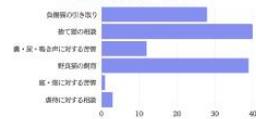
猫の引き取り推移 (県全体)



猫の譲渡率の推移 (県全体)



猫の相談件数 (小林)



分かったこと

- 愛護団体や保健所などの行政機関だけの解決は困難である→周りの人々の協力が必須
- 小林やえびの市にはあまり、保護猫犬を知れる機会が少ない
- 人々が知識を持つことで防げる猫の被害は多い

4. 実践



咲桃虎さんのやっている「咲桃虎大運動会」にスタッフとして参加

<理由>

実際に大人がやっているイベントに参加することで、自分たちが開きたい猫カフェイベントにつながるものを得られると思ったため



<イベント中の流れ>

- 09時：会場（生駒高原）に着き設置のお手伝い
- 10時：開催、受付を担当（募金やチラシ・特典を渡す）
→ どのような人たちが来ているのかを見ることができた
- 12時：お昼ご飯&会場内の散策
→ どのようなことをしているのかを間近で見ることができた
- 15時：終了後の片づけを手伝う



分かったこと

- 来ている人たちは咲桃虎さんを知っている、興味がある人が多い
- チラシ、冊子などを用意しそこに保護猫の啓発に関することを書き渡すと分かりやすいのではないか

5. 実践後の課題



- 今まで興味なかった人たちにも知ってほしい
→ 猫に興味がない人たちに自分たちのことを知ってもらう必要がある
- 猫を扱う場合は、屋外よりは室内の方が圧倒的に安心
→ 動物を入れてもよい建物を見つけるか、外でも安全な方法を考える
- どのような人たちをターゲットにするか
→ まずは自分たちに身近な人（高校生）などに絞ってやる

猫カフェイベントの構想

イベント構成

保護猫と触れ合うことができ、保護猫犬のことを知ることが出来る（愛護団体と協力し、もし興味を持った猫がいれば、そのまま話を聞くことができる）

知ってもらうために

- 冊子を作り、それを配る
- SNSで情報を発信

↓
譲渡会や愛護団体のイベントなどに興味を持ってもらう足掛かりとなる



6. まとめ・今後の展望

- 猫に対する興味がさらに大きくなった
- 一人一人の小さな行動でも助けになることが分かった
- 興味があった自分たちでも知らなかったことをより多くの人に伝えたい
- 猫の魅力をもっと伝えたい！！！！

高校生献血プロジェクト 私たちにできること



1 探究テーマ設定理由

医療問題・地域医療問題の課題としてさまざまなことがある中で、「医師免許や看護師免許を持っていない私たち（高校生）が医療に貢献できることはないか？」をコンセプトに設定して活動してきた

その前に…

地域医療に関する活動を調べる



活動例

募金（歳末助け合い募金、ユニセフ募金など）
防災教室 **献血**



2 研究仮説

献血の認知を広めること

・献血者が増える（特に若年層が増える期待が上がる）



・医療貢献の視野が広がる
・医療に貢献できる

3 調査活動

- ・インターネットで情報収集
- ・えびの市社会福祉協議会にて献血に関するインタビュー調査



4 実践

Action1 宮崎県赤十字血液センター&献血カーリーノ見学

Vision 3 調査活動で献血について知識を得た

➡献血がどのように行っているのか知りたい

Point

- ★献血カーリーノと献血バスの違い
 - ・献血カーリーノ 献血スペースが広い
各病院の輸血情報が共有されている
 - ・献血バス 献血スペースが狭い、全血献血だけの実施
- ★献血者数が低下し続けている現状
全体の献血者数で最も多い年代 50~60代
今後、若年層（10~20代）の献血者を増やしていくこと



Action2 自作のポスターの制作・設置

Vision

献血者をもっと増やしたい

Task

- ①えびの市役所での献血バス実施に向けてポスター制作
- ②えびの市役所周辺の商業施設にアポイントメント
えびの市役所、Aコープかくとう店、JA加久藤支店支店、JAグリーンセンター、えびの市社会福祉協議会
- ③ポスター設置

Result

献血者目標人数50人 → 受付終了時50人 目標達成
当日は市役所の中を巡回して呼びかけを行った
呼びかけを聞いて参加してくれたり、ポスターを見てきてくださった方がいた



5 実践の課題

ポスターを通して、献血の認知が広まったと実感した➡もっと献血の重要性を広めていきたい

若年層の献血者を増やす

Action3 できることを献血で・・・知って、体験して医療に貢献する



6 成果と今後の展望

この活動を通して、献血への関心と医療に興味を持ってほしい
Action3に向けて高校生を中心に、献血の認知を広めるため
「献血バスボランティア」を計画・進行中
そして、今後の将来に活かしていきたい



手話～身近に広めよう～

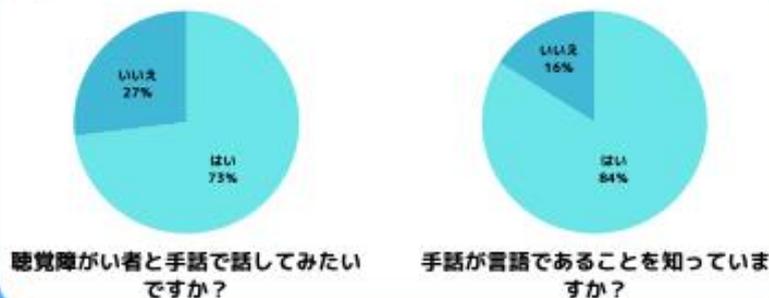
1.なぜ手話？

- 難聴者と聴者が交流する機会が少ない→障がいの壁がある。
 - 手話ができる→活かせる機会がない。
- 手話を通して難聴者と聴者との交流の機会を多くする一つの手にしたい。

2.研究仮説

- 手話をコミュニケーションの一つにできる。
- 難聴者と交流することで考え方が広がる。
- 手話を教えることでいろんなことに興味を持ってもらえる

3 調査活動



4 実践

1.えびの市役所に行って話を聞く

えびの市にどれだけろう者や手話を使う人がいるのか知りたかった。

- 2月28日の午後に市役所の福祉課に行った。
- ・重度難聴や中等度難聴などの割合
 - ・してみたい内容について話した。

2.学校の生徒を対象に手話をレクチャー

初心者でも大歓迎！
手話を楽しく学ぼう

6月13日 17:16:00-16:50
29日 17:00-17:50

- ・講師
- ・会場
- ・参加費

- 手話を楽しく学ぼうをテーマとして行った。
- 飯野高校図書室で実施した。
- 手話だけではなく聾者の暮らしについても知ってもらいたい。

5 実践後の課題

- チラシ作成と配布が遅かった。
- 説明する時にプリントを見すぎた。
- 自分も知らない手話があった。
- 分かりやすく教えられなかった。

6 成果と今後の展望

- 成果→・少人数でも、レクチャーが出来た。
・関わったこと無かった子と関わられた。
- 展望→・小学生や中学生などにも手話を教えてろう者の暮らしにも興味を持って欲しい。
・探究で学んだことを将来に生かしていきたい。





DANCE

ダンスで地域をつなげたい

テーマ設定理由

1. えびの市にダンスの文化があまりないと感じた
2. ダンスの楽しさを地域の皆さんに感じてほしい
→ 踊る、見る
3. ダンスのスキルを活かしたい（試してみたい）

3 すべての人に
健康と幸せを



11 日本だけでなく
まちづくりを



探究仮説

多くの人々が『ダンス難しい』と感じるのは上手なダンスをしようとするからだと考えた。ダンスに対するハードルを下げるためにはまずダンスの楽しさを知ってもらうことが重要なのではないかと考えた。そこで①踊る②見るの2つの視点からダンスを楽しんでもらうイベントを企画。それによりダンス文化が根付き、子供から大人まで幅広い世代の交流とそれに伴う健康的な生活が見込めると考えた。

調査活動

- ・ えびの市、小林市、都城市のダンススクールの調査
- ・ 田の神神楽の調査
- ・ 地域のダンサーとのつながりを作る

実践

- ・ 田の神神楽（新）を作る企画
- ・ 地域のイベントへの参加
- ・ 県内外のダンサーとつながり、踊る

活動実績

- 国際交流祭り2022
- スッキリ ダンスONEプロジェクト
- 国際交流祭り2023
- ダンス甲子園 夏の大会
- ダンス甲子園 秋の大会
- NHK宮崎 青春ダンスポスト
- ヒカリテラス
- NHKプラス宮崎
- 国際交流祭り2024
- 京町温泉花火大会
- ダンス甲子園 夏の大会
- その他文化祭等…



成果と今後の展望

実践型のイベントの企画に携わることでダンスを踊る楽しさを地域に伝えていきたい。
ex) ダンスバトル、WS、レッスン など…

実践後の課題

ステージをたくさんの方に見ていただいたことで楽しさは伝わったと思う。またダンスへの関心や親近感が高まったと思う。しかしそれがダンスへのハードルを下げることにはつながらなかったように感じた。

探究活動を通しての学び

・探究活動を通して子ども食堂に参加した事で、子どもたちと楽しく交流し、子供たちの笑顔をみることができました。また、インタビューをした事で子ども食堂の現状を知ることもできました。また、フードドライブでは、地域の協力のおかげで、少し、フードロスに貢献できました。この2つの活動から行動を起こすことの大切さと、子どもたちと関わったことで、コミュニケーション能力が身につき、子どもたちとの接し方が身につきました。またチームのみんなと役割を分担して、協力することも大切だと思いました。

・探究活動では「手話を広めよう」をテーマとして活動を行ってきました。そこで、人前で話す力と行動力が身についたと思います。高校では高校生を対象に手話をレクチャーしたが、専門学生や就職した場合は、子どもたちと関わる仕事に就きたいと思っているので子どもたちと楽しく手話を使った活動が出来たらいいなと思えるようになりました。2年間で探究活動を通して様々なことを学ぶ事ができたので、進学先や就職先で活かしていきたいです。

・行動力やコミュニケーション能力が伸びました。えびの市の魅力を地域の方々に再認識してもらうため、Instagramやハガキを活用して活動を行いました。その結果、地元の方々だけでなく、県外の方々にも喜ばれ、懐かしさを感じてもらうことができました。この活動が評価され、えびの市観光アンバサダーに就任することとなりました。今後は、Instagramを再運営し、えびの市の魅力をさらに広めると共に、他の地域やイベントも紹介し、観光促進に繋がる情報を発信していきます。

・様々な方とのコミュニケーションの取り方や交流の幅の広げ方を学ぶことができました。また、社会課題や情勢に関して興味を持つ習慣ができました。これまでやってきた内容の活動に関連するニュースや事柄は特に、意識するようになりました。また直接自分で活動したことのないものでも、友達が取り扱っていた内容だとなんとなくイメージしやすく、より身近に社会課題について考えることができるようになったと思います。誰かに頼ることや相談することは私のにとって苦手なことだったけど、時には頼ることも人の為になったりするという事は、大切な学びだったとおもいます。

・探究チームとして動くことの責任感を持つことができた。友達としてではなく、メンバーとして意見を発信しより良い活動に繋げていくことの難しさとやりがいを感じることができた。その上で地域に貢献できることはなんだろうと高校生ながら考えながら行動していた時間はとても有意義であったし他者と協力しながらイベントの企画などをできた経験はとても貴重であったため、大学に行ってもこれまでの活動をうまく活かしていきたいと感じた。

・3年前は「探究活動」という言葉が今ほど浸透しきっていないような認識を持っていました。その中で多くの人との関わりを持ちながら自分が探究したいことを満足するまで突き詰めていける環境をつくってくださった方々に心から感謝しています。探究活動はこれまでの生活背景や個性、影響してきた価値観を反映させることも、覆すこともできる学びです。そして夢中になるものを見つけ、常にワクワクした状態でいられることが探究の最大の魅力だと思います。昨今は問題解決能力だけではなく自

身で課題を設定する力も求められています。常にアンテナを張り、周囲の人と対話を重ね協働しながら創造し実行するサイクルは今後も大切にしていきます。

・地域探究を通して学んだことは、地域の農家さんや地域の方と協同してイベントを開催する力です。私のこれまで行ってきた『農業寺子屋』はえびの市の農家さんの御協力、そして参加してくれる地域の小学生とその保護者がいなければ開催することができませんでした。目上の方に協力を仰ぎ、地元の小学生へ参加を募るなどの方法を学ぶことが出来ました。その上でメールの送り方、電話のかけ方、企画書の作り方などの将来に活かせるような大人として基本的なことも学ぶことが出来ました。

・地域探究活動を通して学んだことは行動力です。私たちは子ども食堂について活動して、実際にフードドライブをしたり、子ども食堂に参加しました。この活動をしたことで大人の方や子どもとの接し方やコミュニケーション能力が身につきました。地域のフードロスを少しでも減らせるようにフードロスをしようと自分たちで考え、行動に、うつすことが出来ました。また、子ども食堂やフードドライブのインタビューをし、活動に詳しく知りたいと思い行動することが出来ました。

・犬に関する探究をしていくうちに今自分たちに求められている解決力について理解を深めることができました。企画書の作り方とか分からなかったけど活動を通して企画書作成力が身につくことができました。活動してきたことを人に上手に伝えることの大切さを学びました。また仲間と協力して行動する楽しさもあっていい探究活動ができたと思います。自分がしてみたかった探究だったので悔いなく探究活動を終えることができよかったです。

・私は、今までの探究活動を通してコミュニケーション能力や責任感、言葉遣いを学ぶことができました。探究活動する前は自分に自信がなくやりたかったことにすぐに挑戦しませんでした。ですが探究活動をするにつれて自分に自信がつき、チームのみんなと協力し自分たちがやってみたいことを挑戦することができました。また探究活動で身についたコミュニケーション能力や責任感をこれからも発揮できるよう夢に向かって頑張っていきたいです。

・探求活動を通して課題の見つけ方や企画書の作成の仕方、コミュニケーション能力が向上することができた。また、犬に関する探究をしていくうちに今自分たちに求められている解決力について理解を深めることができた。最後のグローバル発表会では、今までの活動をスライドでまとめたり、自分たちの言葉で説明することができた。あいかさんと協力して行ってきたことでチームワークもさらに向上することができた。また協力してくださった咲桃虎さんに感謝したい。

・地域の方々と実際に関わっていくなかで、コミュニケーション能力が身につきました。また、地域の問題に実際に触れてその問題や課題を解決するための方法を他の生徒や地域の方々と協力して考えることができた。探究活動で、小学生を対象にサッカー教室を開催して、初めて自分たちでイベントを企画できました。イベントを企画する難しさなどたくさんのことを知ることができました。この経験を活かしてこれからの大学生活に活かしていきたいです。

・地域のさまざまな方と関わる機会を得ることができて地域の方の優しさや地元の良さを知ることができました。また、同じ探究をしていたグループの人との話し合いを通してコミュニケーションの大切さを知りました。探究活動を通して課題を見つけ、解決のために活動することで自分が興味のある分野や将来の夢に関わることを深めることができました。将来は、探究活動で培ったコミュニケーション能力や積極性を活かして自分のやりたいことを全力で頑張りたいです。

・自分の興味があるものから始まった探究活動で学ぶ事がたくさんありました。課題を探して、仮説、実践を行うまでの順序を何とかこなすのに一苦労でしたが、三年の前半では一人で自主的に動くことができていました。先生方にも伝授してもらいながら自分の探究活動が良い方向に進む事が出来たと思っています。活動の中で出会った人達やお世話になった人達の交流が深まり高校生では学べないことを知ることが出来ました。これか将来の夢に向けて探究活動を活かしていきたいです。

・探究していく楽しさや、必要な能力などを学べた。必要な能力は私生活でも役立つなと感じた。具体的には、課題をみつけ、解決策を考え、実行に移すこと。また、課題を見つけること解決策を考えることに対しては、ひとつの視点では安直な考えであったり、深い所まで考えることが出来ないため、人との協力が大切なことも同時に感じた。人と協力していくために、相手を受け入れ、相手の考えを自分の中に落とし込むことも重要であると感じた。

・私は探究活動で、高校生の自分たちでは取り組むことが難しい活動が多々あり、最初描いていた目標を達成することはできませんでした。しかし、大切なことは目標を達成することではなく自分たちができる最大限のことで課題解決に向かうことだと思いました。また、大きな成果をだせなくとも、私たちは活動を通してさまざまな知識や経験を得たと思います。例えば、計画力や調査力、コミュニケーション能力や想像力などが成長しました。協力してくれた大人の方々に感謝して進学先でも頑張っていきたいです。

・地域の人たちと関わって自分が知らなかったことが知れてよかったです。また、多くの人たちと関わりコミュニケーション能力が鍛えられたので良かったです。視野が広がり探究で学んだことを他県に広げていきたいです。えびの市人口が減少していたり空き家が多くあるので将来はえびの市が活性化しているようにしたいです。これからもえびの市が生き残るように頑張りたいです。また、自分でもできることを探していきたいです。えびの市のために頑張っていきたいです

・それぞれの地域にある独自の歴史や文化、自然環境を探究活動を通じて、地域の伝統や特産物、観光地など、地域資源をどのように発展させていくべきか、いかないといけないのか、地域の個性を損なわずにどのようにするのかなどを学びました。それだけでなく、意見の違う人との意見をまとめ上げるリーダーシップ力や物事を進めていくときの責任感や親和性などと言ったこれから先でとても重要な力を今年の探究活動を通して学びました。

・私はスプラッシュフェスのメンバーとして活動してきました。私はサブリーダーとしてチームをま

とめる役割をしていました。この活動で私は主に協調性、計画性、行動性が身についたと思います。私は将来、建築士になりたいのでこれら全ての能力が必要になります。なので、私はこの探究活動が有意義なものとなりました。その中でも特に協調性が身についたと思うので将来の仕事仲間と話し合いながらよりよい建築物を作り上げられたらと思います。

・二年生に上がって、初めて自分たちでしなければならない探究活動というものに出会いました。今までも似たようなことはした事があるのかもしれませんが、課題や目標といった所からも自分達で決めなければいけなかったもので、本当に何をしたいのか分かりませんでした。そんな中でも、友達と一緒に、どうしたい、ああしたい、と話して決めてやる、というのは大変だったけど楽しく、達成感のあるものでした。大学生や大人になってからはあまりする事のできない経験だったので高校生でできてよかったです。

・貧困問題について探究した時、自分が知らなかったことや知ってたことが具体的に分かることができ良かったです。また、イエメンコーヒーでは、販売や販売だけでなく、コーヒーを削って、袋詰めをしたりし、今まで経験したことがないことをすることが出来ました。進学先でも、この探究心を活かしたいと思います。自分はスポーツに関するお仕事に就きたいとおもっていて、イベントなども運営したいと思っているので、その時、探究活動で活かしたことを発揮したいです。

・子ども食堂について探究してきました。この探究を始めたきっかけは、子どもが好きなことと、また地元には子ども達同士が交流する機会がないというところから探求活動を始めようと思いました。学んだことは子どもに対しての正しい接し方、コミュニケーション力を学びました。また、子ども達に提供するご飯を地域の方々と協力して行ったことによって、料理を作ることが出来たし、料理を作ることの大変さも一緒に学ぶことができました。

・大人の人と数多く接したことで、責任感の重要性、人とのコミュニケーションの大切さを強く感じた。特に人とのコミュニケーションは仕事だけでなく私生活でも重要なことであり、様々な人と話すことで自分の視野を広げることで成長することにも繋がるので、これからも意識的に気をつけていきたいと思った。また、卒業するまで、たくさんの人に迷惑をかけてきたので、これからの社会人としての人生で恩を返せるように、きついと思ったことでも全力で取り組んでいきたいと思った。

(5) 成果と今後の展望

新たなカリキュラムの試行による地域をベースにしながらも越境体験する探究活動を通して、生徒が社会課題に向き合い、主体的に学ぶ機会を提供してきた。上記の生徒の振り返りから得た学びや成長について、分析した成果と今後の展望を以下のようにまとめた。

【成果】

① コミュニケーション能力の向上

探究活動を通じて、多くの生徒が「他者と関わる力」を大きく伸ばした。子ども食堂の運営やフードドライブ活動、地域イベントの企画・運営を通じて、大人や子ども、地域の関係者と関わる機会が増え、コミュニケーション力が向上した。特に、「相手の立場に立つ」「協力を得るための伝え方」を意識するようになったとの声が多数あった。

② 行動力と課題解決力の育成

地域課題に対し「自分たちができることは何か」を考え、実際にアクションを起こす力が育まれた。子ども食堂や農業体験イベント、観光プロジェクトなど、地域との協働による課題解決型の活動を実践し、「行動することで変化を生み出す」実感を得ている。

③ チームワークと協働の経験

探究活動の多くがチームで行われたことにより、メンバー同士の協力や責任分担、意見のすり合わせを経験した。「友達」ではなく「プロジェクトメンバー」としての関係性を意識し、対話や合意形成の重要性を学んでいる。協働することで「達成感」や「他者への信頼感」が醸成され、今後の学びやキャリア形成に繋がりたいという意識が強まっている。

④ 自己効力感とキャリア形成への影響

探究活動を通して「やればできる」という自己効力感が高まり、自分の将来に対して前向きなビジョンを持つ生徒が増えた。イベントの企画運営や地域課題の解決経験が、自身のキャリア選択に結びつき、「薬剤師」「建築士」「観光業」「教育」「福祉」など、具体的な進路を意識した動きが見られた。

⑤ 社会課題への関心と視野の広がり

貧困問題、フードロス、観光振興、地域資源の活用など、さまざまなテーマで探究を行う中で、社会課題への関心が深まった。自分の地域だけでなく、他地域や海外にも視野を広げ、「えびの市の未来を考えたい」「自分の活動を他地域にも広げたい」という声も多数挙がった。

【今後の展望】

① 継続的な学びへの動機づけ

高校卒業後の学びや活動にどのようにつなげるか、生徒一人ひとりのフォローが必要。卒業生ネットワークや地域連携の強化により、「学び続ける環境」の提供を目指す。

② 教員と地域のサポート体制の充実

地域協働のプロジェクトには、大人の支援が不可欠。教員・コーディネーター・共創パートナーの三位一体のサポート体制の構築が求められる。

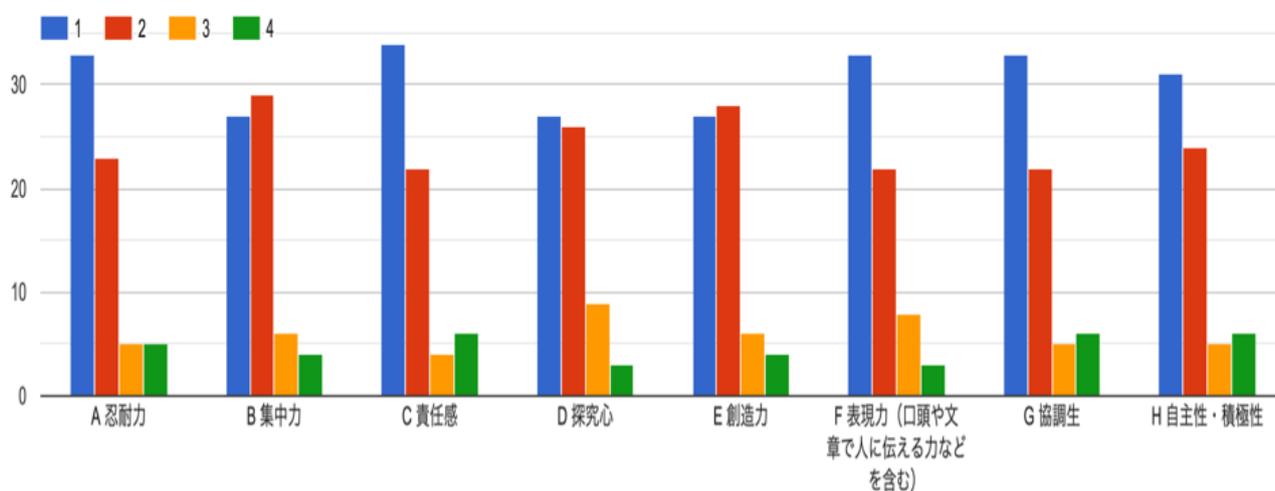
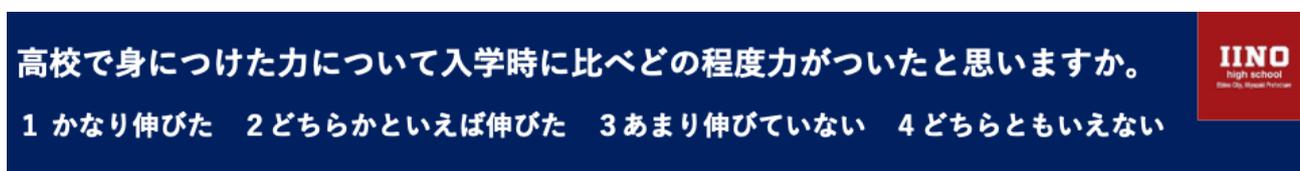
③ 課題設定力のさらなる育成

「課題の設定」に苦労したという生徒も多く、問題意識の育成やリサーチ力の向上が今後の課題である。

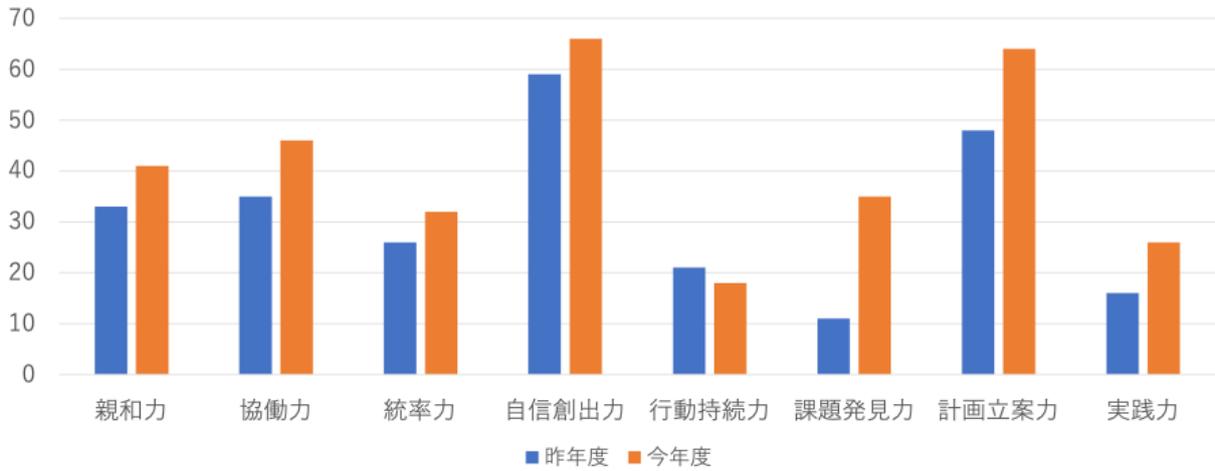
5 事業推進による成果と体制づくり

(1) 主体性・協働性・探究性の高い学習環境の構築

新たな普通科の柱となる探究活動の取組により、主体性 90.2%、協働性 84.8%、探究性 83.4%と、学習環境の高い評価に繋がっている。

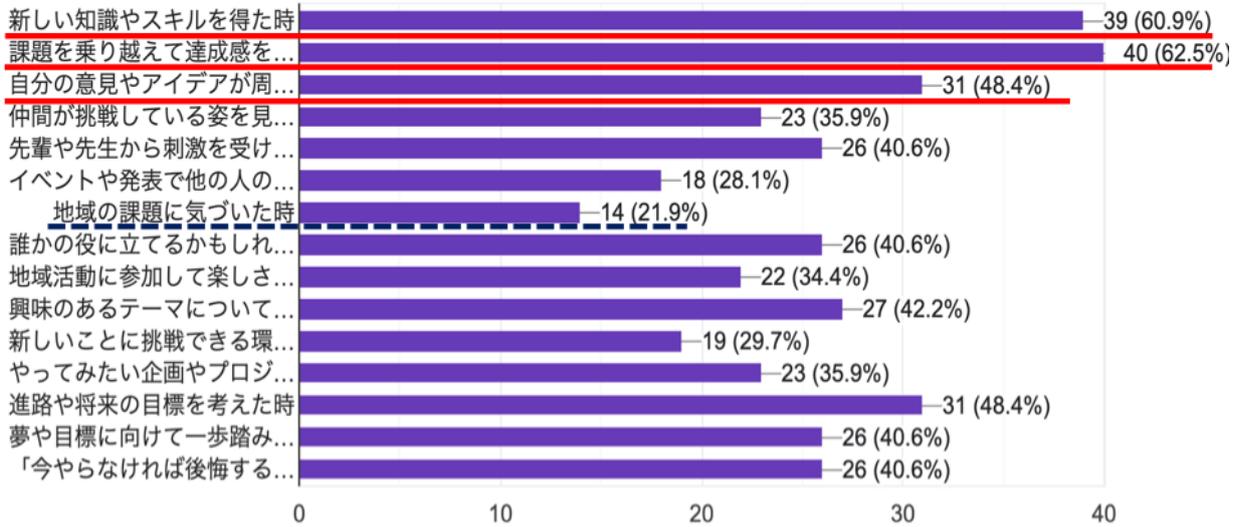


学びみらいPASS（河合塾）によるコンピテンシーの高レベル層変化



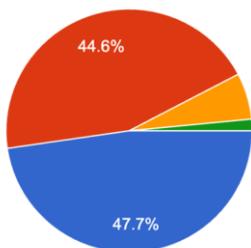
各力の高レベル層（4～5）の割合変化（最大レベル5）※今年度卒業生

自分が「もっと学びたい」「もっと活動したい」「もっとチャレンジしたい」と思うのはどのような時ですか。



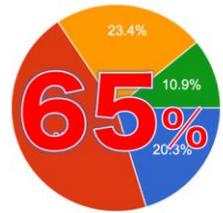
飯野高校で学んだことで、自分ができること、やりたいことが増えている

自分の起こすアクションから国（地域）や社会を変えられると思う



92%

	日本	アメリカ	イギリス	中国
国や社会に役立つことをしたいと思う	64/83	78/83	77/87	93/85
自分は責任がある社会の一員だと思う	51/81	79/83	80/87	92/81
ボランティア活動に参加したい	60/83	76/83	68/85	89/88
慈善活動のために寄付をしたい	58/83	78/83	79/85	87/82
自分は大人だと思う	49/85	76/85	75/83	90/80
自分の行動で、国や社会を変えられると思う	45/85	55/85	56/81	83/87



生徒向けの調査を分析すると以下のことが分かる。

① 生徒自身が成長を実感

「入学時に比べてどの程度力がついたと思いますか」という質問に対し、「かなり伸びた」「どちらかといえば伸びた」と回答した生徒が大半を占めた。

→ 探究が生徒の自信と成長実感に大きく寄与していることが分かる。

② コンピテンシーの高レベル層割合の変化（学びみらい PASS による分析）

各力の高レベル層（4～5）の割合が全体的に上昇

→特に「主体性」「課題解決力」「コミュニケーション力」の伸びが顕著

→探究の中で自ら課題を発見し、解決策を模索するプロセスがスキル向上を促していると考えられる。

③ 自己効力感の向上

「飯野高校で学んだことで、自分ができること、やりたいことが増えている」と答えた生徒が 92%

→ 学びが具体的なアクションへの動機づけになっている

「自分の起こすアクションから国（地域）や社会を変えられると思う」と答えた生徒は 65%

→自らの可能性を社会的文脈の中で捉え直す力が育まれていることを示唆している。

④ 主体性・自己肯定感の向上

探究活動により、生徒の「学びに対する主体性」と「社会への参画意識」を高める効果が確認できた。また、具体的なアクションやチャレンジの機会を提供することで、生徒たちの成長意欲や自己肯定感が飛躍的に向上している。

⑤ より多様な地域・社会課題へのアプローチを増やし、学びのフィールドの拡張

学びの成果を地域や社会と共有し、実社会でのインパクトを目指す。探究活動と教科学習のさらなる接続を図り、学びの深化を促す。

⑥ 地域と共に歩む学びのモデルケース

探究活動は、知識の習得だけでなく、「学び続ける力」「行動する力」「社会に貢献する力」を育む場となっており、今後も地域と共に歩む学びのモデルケースとして発展が期待される。

(2) キャリア教育・進路指導

飯野高校では、生徒一人ひとりのキャリア形成を見据えた探究活動を重視している。探究活動が生徒のキャリア観にどのような影響を与え、進路選択や将来の目標設定にどのように寄与しているのかについて分析したものとして以下のようにまとめた。

① 自己効力感とキャリア意識の向上

探究活動を通じて、将来の職業や役割を「社会に価値を提供するもの」として捉える視点が醸成されている。

② コンピテンシーの向上が進路決定に直結

学びみらい PASS によると「主体性」「課題解決力」「コミュニケーション力」が高レベル層へと伸びている

→これらの力は、進学・就職先の選択において「自分のやりたいこと」に基づいた決断を促進している。

【事例 1】 地域医療に貢献する薬剤師を目指して

地域協働のプロジェクト型活動で新たな価値を創る人材の育成



(活動内容) 医療法人でのプロジェクトに参画し、高齢者の安全対策(ベッド手すりカバーの企画・製作)を実施。農業寺子屋で小学生に農業の魅力を伝える活動も実践。

(キャリア意識の変容) 「地域の健康増進に貢献する薬剤師になりたい」医療職種間の連携による最適な医療提供を志向→地域の課題解決に実際に関わることで、医療職を目指す具体的な理由が形成された。

【事例2】地域と都市の未来をデザインする

地域協働のプロジェクト型活動で新たな価値を創る人材の育成



(活動内容) 空き家リノベーションプロジェクトを通じた地域協働。ビヨンドトゥモローリーダー、ジャパン未来リーダーズサミット、台湾・アメリカでの海外研修、生徒会副会長など多様な経験。

(キャリア意識の変容) 「都市、地方問わず社会全体で新たな価値づくりをしたい」「若者が地域社会に居場所を見つけ、自分らしく生きるための環境を創りたい」→ 探究を通じて「地域」と「社会」をつなぐ課題解決型のキャリアビジョンが明確化された。

以上のように、本校の探究活動は、単なる学びにとどまらず、具体的なキャリアビジョン形成を促す大きな役割を果たしている。生徒は、地域協働型のプロジェクトを通じて、社会課題に主体的に取り組み、自らの将来像を現実的かつ意欲的に描く力を育んでいる。

探究テーマ	入試区分	進路先
えびのFavor～横浜から来た留学生と地元生でえびのために何が出来るか～	総合型	宮崎国際大学 国際教養学部比較文化学科
Nection～宮崎から世界へ！次世代の幸せを追求した社会還元型プロジェクト～	総合型	敬啓大学 ソーシャルシステムデザイン学科
Nection～宮崎から世界へ！次世代の幸せを追求した社会還元型プロジェクト～	総合型	立教大学 経営学部国際経営学科
農業でWELL BEINGな社会へ～農🌱WELEの取り組み	総合型	北九州市立大学 地域創生学群地域創生学類
子ども食堂～フードドライブで子ども達に笑顔を～	総合型	関西福祉大学 看護学部看護学科
アニマルセラピー～保護犬と楽しむアニマルセラピー～	一般推薦	鹿児島県立短期大学 生活科学科食物栄養専攻
地域スポーツプロジェクト	総合型	藤田医科大学 保健衛生学部リハビリテーション学科
地域スポーツプロジェクト	総合型	帝京大学 福岡医療技術学部診療放射線学科
地域創生で元気に！みんなで踊ろう～shall we dance～	総合型	九州産業大学 地域共創学部
様々な人や文化、違いを学ぶ！こねくと	一般	宮崎国際大学 国際教養学部比較文化学科
保護猫～猫のためにできること～	一般	純真学園大学 保健医療学部放射線技術科学科
京町温泉郷活性化プロジェクト	一般	高知工科大学 理工学群環境数理専攻
京町温泉郷活性化プロジェクト	一般	淡江大学(台湾) 理学院建築学系
保護猫～猫のためにできること～	一般	久留米大学 文学部心理学科
京町温泉郷活性化プロジェクト	一般	長崎大学 教育学部小学校教育コース
世界支援～Saving the world with our power～	総合型	九州産業大学 人間科学部スポーツ健康科学科
子ども食堂～フードドライブで子ども達に笑顔を～	総合型	九州看護福祉大学 看護福祉学部社会福祉学科
子ども食堂～フードドライブで子ども達に笑顔を～	指定校	国際医療福祉大学 福岡保健医療学部医学検査学科

(3) 探究を支える教員チーム・コーディネーター（コーディネーターを加えた体制の整備）

常駐 2 名のコーディネーターが地域連携や探究活動を支援し、進路指導や生徒募集についても支援している。今年度は教員と協働しながら校内組織の中で業務構築を進めた。以下が本年度のコーディネーターの主な活動内容である。

事例 #1

▶ 宮崎県立飯野高等学校

県教委雇用と市雇用の 高校コーディネーター2人体制

宮崎県立飯野高等学校は、宮崎県えびの市に唯一立地する公立高校であり、普通科(総合コース・探究コース)と生活文化科からなる全校生徒230名の高校です。同校には、高校CNが2名配置されており活躍していますが、それぞれの雇用主・財源は異なります。竹本佳代さんは、同校OBで県内企業勤務や市内カフェ店員等を経験している人材であり、普通改革事業の予算を活かし、高校が雇用。雇用主との関係から、高校内での探究活動のサポート(生徒同士のコミュニケーションやメンタル面のサポート等)が中心となり、主に学校内が活動場所となっています。武井恒介さんは、えびの市に地域おこし協力隊として雇用され、高校CNの役割を職務としています。地域おこし協力隊はその制度の性質から、地域住民との距離が近く、高校と地域の接続・関係構築の役割を担いやすい特徴があるほか、市と高校をつなぐ役割も担っています。活動場所も学内に限らず、地域全般と広く、さらに市の職員であるため、高校内での探究活動支援(生徒のプロジェクト伴走、カリキュラム作成サポート等)だけではなく、中高連携の強



▲武井恒介さん ▲竹本佳代さん

化を目的に市内中学校でも同様の支援を行っています。

地域おこし協力隊の雇用に係る費用については、国から市町村に対して特別交付税措置がされるため、市町村としては自主財源の負担が極めて小さく活用しやすい制度といわれています。また、予算措置の対象は雇用する人材の人件費(給与)だけでなく、地域おこし活動に係る経費(事業費)も含まれ、高校CNが各種活動を展開しやすい点に特徴があります。



「高校コーディネータースタートガイドブック」より

- ・ 生徒支援および探究活動のサポート
 - 生徒の実践における地域との調整や準備等の実務、日常の探究活動におけるサポート、相談対応
- ・ カリキュラム開発および研修参加
 - 探究活動におけるカリキュラム開発の実践、コンテンツの設計サポート、研修への積極的な参加
- ・ 校内外の連携・運営支援
 - 共創パートナーとの意見交換、進路指導部会（本事業事務局会議）への所属および毎週の MTG 参加

また、コーディネーターの専門性向上を目的とし、宮崎大学特別講師（運営指導委員）である中山隆氏によるコーディネーター研修を実施した。次年度以降は、えびの市キャリア教育支援センターも開設され、小中高における探究支援（キャリア教育支援）もスタートするため、研修や実務を通じて、より効果的なサポート体制の構築を進めていく。



コーディネーターの年間の取組

月	学校×地域・探究	広報・学校紹介	生徒面談等
4月	探究の時間のサポート（毎週水曜） 進路指導部会への参加（毎週月曜） ※上記は～3月まで えびの市学力向上研究委員会（月1回）		全国卒委員会への参加 （毎週火曜）
5月	仕事図鑑製作に向けた準備 ・えびの市観光商工課との調整 ・校内における実施計画の策定	パンフレット作成	
6月	超探究の日サポート 校外研修への引率	県外からの資料請求 の対応・学校見学の 対応（3月まで随時）	探究に関する面談
7月	魅力化コアチーム委員への協力依頼 飯野小中高こどもサミット 超探究の日サポート 生徒企画「地域みらい旅」の実施	オープンスクール	
8月	探究活動の支援		
9月	ひなた場に向けた準備・伴走、引率 共創サポーターとの連絡調整	秋の学校説明会	
10月	えびの未来カフェの運営補助 超探究の日サポート ジョブトレーニングの実施		3年生面接練習
11月	ひなた場に向けた準備・伴走、引率		3年生面接練習
12月	探究活動合同発表会の引率 探究に係る県サミットの支援		
1月	グローバル学習成果発表会の支援 グローバルリーダーズサミットの支援		
2月	超探究の日の支援		
3月	探究研修会への参加		

※コーディネーターは、生徒の探究活動を円滑に進めるため、相談対応や企画のブラッシュアップ、発表準備の支援を行った。今後も、より実践的なサポートを提供し、生徒の主体的な学びを促進していく。

(4)共創パートナー制度

探究活動を進める中で、地域内外のパートナーとともに学びと実践のサイクルを強化する。現状の登録パートナーは以下の通りである。(一部のみ)

LGBT 交流会代表	航空会社客室乗務員
アウトドアステーション施設長	吉都線に観光列車を呼ぼう！小林実行委員会
サイクル商会 代表	明石酒造（株）常務取締役
川畑商品店 代表	（株）立久井農園 課長
真幸寺 住職	八幡神社宮司
ドッグトレーナー	えびの市役所観光商工課長
フリー鉄道アナウンサー	宮崎県理容組合講師会会長
地域医療を考える会代表	株式会社 terra 代表取締役社長
タイガーマーブ株式会社 COO	サンワード・ラボ株式会社 代表取締役
株式会社 BRIDGE the gap 代表取締役	株式会社緒方組 常務取締役
社会福祉法人ときわ会 理事長	（株）サステナビリティ推進室マネージャー

今年度も共創パートナーによる伴走をはじめ、協働した取組が実践された。

(5)教員研修（ICT 活用、探究指導法など）

教科横断的な探究型授業の実現を目指し、職員研修や実践授業、相互参観を実施。

[コンセプト]

- ・教科横断的な視点を持った探究型授業の推進
- ・若手教員の育成とリーダーシップ強化
- ・全教職員が「自分の教科こそ探究」と捉え、授業改革に主体的に関わる風土づくり

[実施内容]

- ・対話型研修
- ・「授業の実践に向けた対話」をテーマに、各教科の教員がグループを編成し、探究的な授業について意見交換を実施
- ・教科横断グループの編成
- ・若手教員を各グループのリーダーに任命し、研修の推進役としてリーダーシップを発揮

[実践授業と相互参観]

教科間で授業を参観し合う形式で実践し、生徒主体の学びの促進し、生徒視点での学びの意義を共有例) 国語：「マイクロディベートを通して論理的スキルを身につけよう」



生徒2人。
先生にレクチャー

自分の教科こそ探究

[成果と効果]

- ・教科を超えた協働意識の向上
- ・若手教員がリーダーシップを発揮し、自信を深めた
- ・教員間の相互理解と授業改善への意欲の向上
- ・生徒と教員が学び合う双方向の関係構築が進んだ
- ・新たな探究授業モデルの創出に繋がるヒントが得られた

[今後の課題と展望]

- ・教科横断型探究授業の継続的な実践と共有
- ・リーダー育成プログラムの継続と、若手教員支援の拡充
- ・生徒参画の仕組みをさらに強化し、授業デザインへの意見反映を促す
- ・実践事例のデータ化・可視化による校内外への発信
- ・「新時代に対応した高等学校改革推進事業」のガイドラインをもとに、地域と連携した授業改革の拡張

職員研修は、「教科の枠を超えた学び」「教員の主体的な授業改善」「生徒が関わる探究的学び」という観点について全職員で意識の統一を図ることができた。今後も職員全体で協働し、持続可能な学びの場づくりを進めていく。



若手を研修グループ
のリーダーに

教科横断のグループ

6. 課題と今後の展望

① 教員の探究指導力と ICT 活用の強化

教科横断の探究授業は試行的段階にあり、より広範な授業モデルの共有・深化が求められる。
探究活動における ICT 環境のさらなる整備が必要（デジタルツール活用や資料共有の効率化）

② 探究活動への参加率・継続性の確保

一部の生徒において、探究活動の参加モチベーション維持が課題
→参加率の向上と、学びの成果が可視化される仕組みのさらなる充実が必要

③ 学びとキャリアの接続の深化

探究活動と進路選択の関連性をより意識づける取り組みが不足
→ 探究成果の進路指導・キャリア教育への直接的な反映を進める

④ 課題への対応策と今後の改善の方向

探究型授業の実践例をデータベース化し、教員間での共有と研修の拡充を進める。ICT インフラの整備・ツール研修の実施。探究活動の成果を広く発信し、生徒の達成感や承認欲求に応える場を増設（発表会、コンテスト出展など）。探究活動を進路面談・職業講話と連携させ、生徒の「やりたい」を「キャリア」につなぐストーリーを構築する。

7 成果普及のための取組

令和6年度も、地域社会学科の研究を普通科改革（地域と協働した探究活動）推進に取り組んできた。主体的に取り組む生徒の力をどのように育成しているか、県内外の教員向け研修や授業公開を実施し、本校の実践を共有することで、地域社会に根ざした新たな普通科の学びを広げた。

	実施日	内容等	主催等
公開 授業	7月3日（水）	探究活動の実際 ①普通科総合コース、探究コースの授業見学 ②ワークショップ型研修会（各校の取り組みにおける困り感などを共有しながら考える）	飯野高校
	10月16日（水）	探究活動の実際 ①普通科総合コース、探究コースの授業見学 ②ワークショップ型研修会（福岡・佐賀県の高校や教育事業関連会社の事業に学ぶ）	飯野高校
県教委・団体等研修	5月23日（木）	新任指導教諭研修会（県防災庁舎）	宮崎県教育委員会
	8月3日（土）	県民総ぐるみ「地域・学校づくりのつどい」（えびの市文化センター）	宮崎県教育庁南部教育事務所
	8月6日（火）	えびの市一貫教育研修会（えびの市文化センター）	えびの市教育委員会
	9月17日（火）	第5回PBL・探究学習ノウハウ共有勉強会（オンライン）	和歌山県商工労働部 企業政策局企業振興課
	9月20日（金）	探究研修会（オンライン）	島根県教育委員会
	1月12日（月）	オモロー授業発表会 in 小林市（TENAMU 交流スペース）	絆を結ぶ物語実行委員会
	3月15日（日）	第3回「高梁探究サミット」（高梁市文化交流会館）	高梁 100challenge
	3月29日（土）	全国高校生マイプロジェクト教員研修	全国高校生マイプロジェクト実行委員会

学校等による主催研修	7月3日(水)	探究のカリキュラム設計と実践事例	宮崎学園高校
	7月5日(金)	探究学習の取り組み方	えびの市立上江小中学校
	9月24日(火)	探究と教科の学びの往還	飯野高校
	10月2日(水)	探究のカリキュラム設計と実践事例	愛知県立足助高校
	10月4日(金)	探究のカリキュラム設計と実践事例	宮崎第一高校
	11月5日(火)	探究と教科の学びの往還	飯野高校
	11月6日(水)	高校魅力化における取り組み	長崎県松浦市議会
	11月7日(木)	高校魅力化における取り組み	三股町立三股西小学校 PTA
	11月21日(木)	探究のカリキュラム設計と実践事例	熊本県立甲佐高校
	11月27日(水)	探究のカリキュラム設計と実践事例	大分県立別府青翔高校
	12月13日(金)	生徒研究発表会審査員(宮崎南高校)	宮崎南高校
	12月17日(火)	探究のカリキュラム設計と実践事例	立命館大学
	12月12日(木)	探究のカリキュラム設計と実践事例	大口明光学園高校
	12月18日(水)	探究的な学びを入れた教育活動について	飯野地区小中高一貫教育企画実行委員会
	1月21日(火)	高校魅力化における取り組み	京都府議会
	1月29日(水)	探究のカリキュラム設計と実践事例	鹿児島県立大口高校
	2月10日(月)	探究発表会講評 (小林市立西小林小学校)	小林市立西小林小学校
	2月19日(水)	探究と教科横断の学び (島根県立隠岐島前高校)	島根県立隠岐島前高校
	3月12日(水)	探究活動と越境プログラム	熊本市立必由館高校